

平成 22 年度第 2 回成田市男女共同参画計画推進懇話会会議録

1 開催日時

平成 22 年 7 月 30 日(金) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分

2 開催場所

成田市花崎町 7 6 0 番地

成田市役所 3 階第 2 応接室

3 出席者

(委員) 荻原委員, 小長井委員, 小森委員, 菅野委員, 宮野委員,
青柳委員, 衣笠委員, 星野委員, 浅野委員, 藤崎委員, 麻生委員

(事務局) 成毛企画政策課長, 神山企画政策課主幹,
設楽企画政策課主幹, 野呂企画政策課主任主事

(委託業者)(株)ワイズマンコンサルティング 山口 氏

4 議題

- (1) 成田市男女共同参画計画の平成 21 年度事業実績について
- (2) 男女共同参画社会に関する市民意識調査結果(速報)について
- (3) その他

5 議事(要旨)

成田市男女共同参画計画の平成 21 年度事業実績及び男女共同参画社会に関する市民意識調査結果(速報)、またその他として、(仮称)第 2 次成田市男女共同参画計画(案)の基本施策について、事務局から説明を行った。

6 質疑等 (1) 成田市男女共同参画計画の平成 21 年度事業実績について

委員 : 計画で行っている事業が多いように感じる。中にはこれが事業と言えるのかと思う事業もある。例えば「男女共同参画に関する情報・資料の収集提供」では、各自治体の計画を何冊集めたとしか書いていない。これは先進地の事例を集めたと解釈してよいのか。

事務局 : 男女共同参画の視点で事業を展開している。計画にある事業について進捗状況を調べている。

委員 : 成田市の待機児童は、どの位いるのか。

事務局 : 今日現在で 13 名となっている。

委員 : 公表されている待機児童数はとても狭義的な数字なので少ない。選考に漏れた人の中で無認可保育所やベビーシッターなどを申し込んでいる家庭を含めると、膨大な数で待機児童がいることになる。

委員 : フォーラムインナリタは、高齢女性の参加が多い傾向にあるため、もっと若い世代や育児を必要としている世代、子育て家庭の参加者が多くなって欲しい。今後の活

動方法、改善方法など検討していることがあれば教えて頂きたい。

事務局：フォーラムインナリタは土日開催がメインになっている。以前までは講師を招いて実施していたが、近年は国際結婚された方や育児休業を利用した方などの体験を話してもらっている。若い世代や子育て家庭の休みである土日に開催しても、厳しいのが現状。

委員：若い世代や子育て家庭は、そういった場でわざわざ聞きに行つて勉強する以前に、仕事など現場で勉強する機会があると考えられる。むしろ高齢者世代や若い世代の親が勉強できる場として活用すべきと思う。

委員：市のホームページで、フォーラムインナリタなどの様子を動画配信するなど、ビジュアル的なもので興味関心を引いたらどうか。

事務局：検討させていただきたい。

委員：イベントの際に、子育て家庭が利用しやすいように託児所を設けたらどうか。

事務局：本市において実際に保育士を配置して託児を実施している。

(2) 男女共同参画社会に関する市民意識調査結果（速報）について

委員：結果を見ると、これだけの男女が、ともに暴力などを受けたことがあると回答しており、驚いている。相談したかという設問で、多くの人が「相談するほどではないと思った」を回答していること、特に男性の割合が多いことに非常にショックを受けた。こういった面からも、次回の調査には男性の視点を踏まえた調査を行つて欲しい。調査項目で気になった点としてセクハラの設定で、セクハラをされた側なのか、した側なのか質問の焦点が曖昧な部分があり、もう少し議論が必要だという印象があった。

委員：市民の意識を変えていく際には、身近な点から議論が必要になってくる。審議会の女性割合がどうこうより、夫婦・家庭のあり方など身近な視点から市民の意識を変えていく必要があると思われる。

(3) その他（第2次成田市男女共同参画計画(案)について）

委員：「第2次」という表現だが、これは決定事項か。例えば成田市男女共同参画“推進”計画や“行動”計画という表現はできないのか。また基本理念についても決定しているのか。

事務局：名称、基本理念については、今後検討していく。

委員：施策体系の中で「ひとり親家庭等の自立支援」となっているが事業はどのようなものを想定しているか。

事務局：所得制限はあるが、児童扶養手当や相談体制になってくる。

委員：「あらゆる暴力の根絶」は、男女含めて考えるのであれば、「被害女性に対する支援体制の充実」を女性に限定せず“被害者”という表現にしたらどうか。また、

「女性の再就職など職業能力開発の支援」は、経済不況の中では男性も雇用問題を抱えているので、女性に限定した言い方ではない方が良いのではないかと。全体をみると子どもの視点が入っていないので、どこか入れるべき。施策全体にいえるのだが、政策立案など女性進出などのポジティブな面には女性、暴力や健康などネガティブな面については、男女両方の問題として捉えるべき。

事務局：計画内容についても、今後協議、検討していく。

7 傍聴

1名

8 次回開催日時(予定)

未定